

小児口腔機能管理料（100点）の 算定について

小児口腔機能発達不全症と算定要件の理解

会員から小児口腔機能管理料の算定が良くわからないとの声がありましたので、算定要件についての説明ページを設けました。

社会保険検討委員会

小児口腔機能発達不全症の診断と算定について

理解していただきたいのは、小児口腔発達不全症の診断と小児口腔機能発達不全症の算定要件は異なるという点です。

「小児口腔機能発達不全症」の診断を行う



「小児口腔機能発達不全症」の疾患名が付いた小児を対象に算定要件を確認する。

対象年齢は15歳未満ですが、15歳の誕生日以前に以前に管理を開始している場合は18歳未満の間は算定が可能です！

小児口腔機能発達不全症の 診断と算定について

この流れを「離乳完了前」と「離乳完了後」に分けて
説明します。

離乳完了前の診断手順

「食べる機能」「話す機能」の項目(C)において2つ以上の該当項目があるものを「口腔機能発達不全症」と診断する。

離乳完了前ではC-1～C-8を1つ含む必要があります。

A 機能	B 分類	C 項目
食べる	哺乳	C1 先天歯がある
		C2 口唇・歯槽の形態に異常がある
		C3 舌小帯に異常がある
		C4 乳首をしっかり口に含むことができない
		C5 授乳時間が長すぎる、短すぎる
		C6 哺乳量・授乳回数が多すぎたりムラがある等
	離乳	C7 開始しているが首のすわりが確認できない
		C8 スプーンを舌で押し出す状態がみられる
話す	構音機能	C9 口唇の閉鎖不全がある(安静時に口唇閉鎖を認めない)
その他	栄養	C10 やせ、または肥満である (カウプ指数で評価)+1
		現在 体重 g 身長 cm
		出生時 体重 g 身長 cm
		カウプ指数:
	その他	C11 口腔周囲に過敏がある
		C12 上記以外の問題点

離乳完了前の算定要件のチェック手順

算定要件には「口腔機能発達不全症」の診断に加えて、その他まで含めて3項目以上にチェックが必要です。

A 機能	B 分類	C 項目
食べる	哺乳	C1 先天歯がある
		C2 口唇・歯槽の形態に異常がある
		C3 舌小帯に異常がある
		C4 乳首をしっかり口に含むことができない
		C5 授乳時間が長すぎる、短すぎる
		C6 哺乳量・授乳回数が多すぎたりムラがある等
	離乳	C7 開始しているが首のすわりが確認できない
		C8 スプーンを舌で押し出す状態がみられる
		C9 離乳食が進まない
話す	構音機能	C10 口唇の閉鎖不全がある（安静時に口唇閉鎖を認めない）
その他	栄養	C11 やせ、または肥満である （カウプ指数で評価） +1
		現在 体重 g 身長 cm
		出生時 体重 g 身長 cm
		カウプ指数：
	その他	C12 口腔周囲に過敏がある
		C13 上記以外の問題点

離乳完了後の診断手順

「食べる機能」「話す機能」の項目(C)において2つ以上の該当項目があるものを「口腔機能発達不全症」と診断する。

A 機能	B 分類	C 項目
食べる	哺乳	C1 先天歯がある
		C2 口唇・歯槽の形態に異常がある
		C3 舌小帯に異常がある
		C4 乳首をしっかり口に含むことができない
		C5 授乳時間が長すぎる、短すぎる
		C6 哺乳量・授乳回数が多すぎたりムラがある等
	離乳	C7 開始しているが首のすわりが確認できない
		C8 スプーンを舌で押し出す状態がみられる
話す	構音機能	C9 口唇の閉鎖不全がある(安静時に口唇閉鎖を認めない)
その他	栄養	C10 やせ、または肥満である (カウプ指数で評価)+1
		現在 体重 g 身長 cm
		出生時 体重 g 身長 cm
		カウプ指数:
	その他	C11 口腔周囲に過敏がある
		C12 上記以外の問題点

離乳完了後の診断手順

算定要件には「口腔機能発達不全症」の診断に加えて、その他まで含めて3項目以上にチェックが必要です。

A 機能	B 分類	C 項目	
食べる	咀嚼機能	C1 歯の萌出に遅れがある	
		C2 機能的因子による歯列・咬合の異常がある	
		C3 咀嚼に影響するう蝕がある	
		C4 強く噛みしめられない	
		C5 咀嚼時間が長すぎる、短すぎる	
		C6 偏咀嚼がある	
	嚥下行動	C7 舌の突出（乳幼児嚥下の残存）がみられる（離乳完了後）	
食行動	C8 哺乳量・食べる量、回数が多すぎたり少なすぎたりムラがある等		
話す	構音機能	C9 構音に障害がある（音の置換、省略、たわみなどがある）	
		C10 口唇閉鎖不全がある（安静時に口唇閉鎖を認めない）	
		C11 口腔習癖がある	
		C12 舌小帯に異常がある	
その他	栄養(体格)	C13 やせ、または肥満である （カウプ指数で評価）+1	
		現在 体重 g 身長 cm	
		出生時 体重 g 身長 cm	
		カウプ指数・ローレル指数:	
	その他	C14 口呼吸がある	
		C15 口蓋扁桃などに肥大がある	
		C16 睡眠時のいびきがある	
		C17 上記以外の問題点 （ ）	
口唇閉鎖力（ N）			

「口腔機能発達不全症」に関する算定

算定要件を満たすと、下記の点数が算定可能です。

令和2年の改定により（歯管）の加算ではなく、独立した管理料となりました。

歯科疾患管理料 80点

文章提供加算 10点

小児口腔機能管理料 100点

小児口唇閉鎖力検査（1回につき） 100点（新設）

3月に1回に限り算定可

管理計画を文書に記録します。

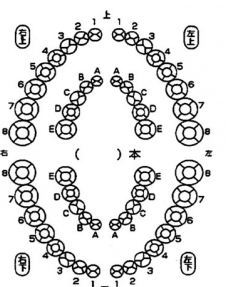
初回用

継続用

歯科疾患管理・小児口腔機能管理

(文書様式 1 初回用・小児) R2

歯と口の健康のために

お名前		No.	
【基礎疾患】 ☐ アレルギー () ☐ 呼吸器疾患 () ☐ 耳鼻科疾患 () ☐ 心臓疾患 () ☐ 血液疾患 () ☐ 肝・腎疾患 () ☐ その他 ()			
【服薬】 ☐ 無 ☐ 有 (薬剤の種類・薬剤名)			
【生活習慣】歯みがき ☐ 起床後 ☐ 食後(朝・昼・夕) ☐ 就寝前 ☐ 1日 () 回 ☐ デンタルフロスの使用 ☐ 電動歯ブラシの使用 間食 ☐ 不規則 ☐ 規則正しい ☐ あまりしない 内容 () 習慣的飲料物 () その他 ()			
【口腔内の状況】 		【むし歯】 ☐ なし ☐ 初期あり ☐ あり 【歯肉の状態】 ・プラークや歯石の付着 ☐ なし ☐ 少しあり ☐ あり ・歯肉の炎症 ☐ なし ☐ 少しあり ☐ あり 【その他】 ()	
		【小児口腔機能の問題】 ☐ なし ☐ 唇閉鎖力 () N ☐ 咀嚼機能 ☐ 嚥下機能 ☐ 食行動 ☐ 構音機能 ☐ 栄養 ☐ 習癖(くせ) 指しゃぶり・舌の突出・おしゃぶり使用・歯ぎしり・ ☐ 呼吸・その他 () ☐ その他 ()	
		【その他・特記事項】	
改善目標	☐ 歯みがきの習慣 ☐ 歯ブラシ・フロス(糸ようじ)の使用 ☐ 飲料物の習慣 間食の習慣 ☐ よくかむ習慣 ☐ 口腔機能の改善・獲得 ☐ その他 ()		
治療の予定	☐ ブラッシング指導 () ☐ フッ化物塗布 ☐ シーラント ☐ むし歯治療 (進行抑制剤塗布・つめる・冠・根の治療) ☐ 抜歯 ☐ 歯肉炎・歯周炎の治療 ☐ 口腔機能管理 ☐ その他 ()		

この治療の予定は治療開始時の方針であり、実際の治療内容や進み方により、変更することがあります。

医療機関名
(担当歯科医師)

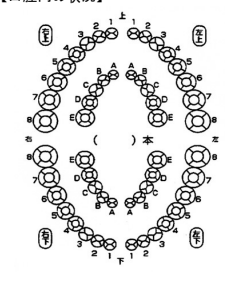
公益社団法人 日本小児歯科学会監修

歯科疾患管理・小児口腔機能管理

(継続用・小児) R2

歯と口の健康のために

(治療のお知らせ)

お名前		No.	
【口腔内の状況】 		【むし歯】 ☐ なし ☐ 初期あり ☐ あり 【歯肉の状態】 ●プラークや歯石の付着 ☐ なし ☐ 少しあり ☐ あり ●歯肉の炎症 ☐ なし ☐ 少しあり ☐ あり 【その他】 ()	
		【小児口腔機能の問題】 ☐ なし ☐ 唇閉鎖力 () N ☐ 咀嚼機能 ☐ 嚥下機能 ☐ 食行動 ☐ 構音機能 ☐ 栄養 ☐ 習癖(くせ) 指しゃぶり・舌の突出・おしゃぶり使用・歯ぎしり・ ☐ 呼吸・その他 () ☐ その他 ()	
		【その他・特記事項】	
これまでの治療	☐ ブラッシング指導 () ☐ フッ化物塗布 ☐ シーラント ☐ むし歯治療 (進行抑制剤塗布・つめる・冠・根の治療) ☐ 抜歯 ☐ 歯肉炎の治療 ☐ 口腔機能管理 ☐ その他 ()		
改善目標	☐ 歯みがきの習慣 ☐ 歯ブラシ・フロス(糸ようじ)の使用 ☐ 飲料物の習慣 間食の習慣 ☐ よくかむ習慣 ☐ 口腔機能の改善・獲得 ☐ その他 ()		
治療の予定	☐ ブラッシング指導 () ☐ フッ化物塗布 ☐ シーラント ☐ むし歯治療 (進行抑制剤塗布・つめる・冠・根の治療) ☐ 抜歯 ☐ 歯肉炎の治療 ☐ 口腔機能管理 ☐ その他 () ☐ 歯科疾患の重症化予防のため、以下の治療や管理をします ☐ 定期的な(むし歯・歯肉炎・歯周炎)の管理 ☐ 継続的な口腔機能の管理 ☐ その他 ()		

※定期的に管理することは、健全な永久歯列にしていいため、それを維持するために大切です。

※お口の健康管理が全身の健康管理につながります。

この治療の予定は、実際の治療内容や進み方により、変更することがあります。

医療機関名
(担当歯科医師)

公益社団法人 日本小児歯科学会監修

<http://www.jspd.or.jp/contents/main/download/index02.html> (日本小児歯科学会) からダウンロード

管理計画の保存し、患児（者）への写しを提供します。

カルテにチェックシート 管理計画表 写真 指導記録 検査値を添付し、患児（保護者）に管理計画表の写しを提供します。

A 機能	B 分類	C 項目	該当項目	指導事項の 必要性
食・食生活	形態観察	○-1 歯の役割に述べられる	☐	
		○-2 横切の図に上を歯肉・咬合の裏面がある	☐	
		○-3 咀嚼に必要となる歯列がある	☐	☐
		○-4 歯(乳歯)めしめる	☐	
		○-5 歯痛が治るまで、待つ	☐	
		○-6 歯磨きがある	☐	
目	機能観察	○-7 歯の突起(乳歯)の突起がみられる(歯突き後)	☐	
		○-8 歯は硬い。食える。目の奥より少しずたずたのうしろにある	☐	☐
		○-9 横切に歯の突起(歯の突起、歯根、歯の突起)がある	☐	☐
		○-10 口唇の突起(歯)がある(歯肉の突起(歯肉)を認める)	☐	☐
		○-11 口唇を動かす	☐	
		○-12 歯の突起がある	☐	☐
その他	実態 (特殊)	○-13 中々、または硬い	☐	
		(カウパース・カウパース)	☐	
		○-14 口唇を動かす	☐	
その他		○-15 口唇を動かす(口唇を動かす)	☐	
		○-16 歯肉の突起(歯)がある	☐	☐
		○-17 上記以外の項目	☐	

[illegible]

指導・管理記録			
回数	年月日	管理・指導項目(添削項目の該当するものに○)	特記事項
1	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)
2	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)
3	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)
4	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)
5	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)
6	年 月 日	食べる機能 (改善・変化せず・悪化) 話す機能 (改善・変化せず・悪化) その他の機能 (改善・変化せず・悪化)	写真撮影(有・無)



患児・保護者にコピーを提供します。

写真撮影は初回には必ず実施し、その後は少なくとも管理料を3回算定するにあたり1回以上行ってください。

[illegible]